

## 議 事 概 要

### 1 開会

・事務局からの開会の挨拶、出席状況の報告、配布資料の確認、委員及び事務局職員の自己紹介、会長・副会長の選任を行った。

#### 【出席委員】

別紙名簿のとおり（伊藤委員、藤田委員は欠席）

#### 【挨拶】

札幌市環境局環境都市推進部長

#### 【会長・副会長の選任】

会長は小林委員、副会長は森田委員を選任

#### 【配布資料】

- ・会議次第
- ・資料 1：委員名簿
- ・資料 2：平成 23 年度環境教育関連事業の実施状況
- ・資料 3：札幌市環境教育基本方針設置要綱
- ・参考資料：「環境教育へのクリック募金」寄贈教材一覧
- ・参考資料：かんきょう元気壁新聞平成 23 年度夏号
- ・参考資料：札幌市内環境関連 12 施設めぐりガイド「みんなでおでかけポケットブック」
- ・参考資料：さっぽろこども環境コンテスト 2011 リーフレット

### 2 議事（1）環境教育関連事業の実施状況について

#### （2）今後の事業について

・資料 2 及び参考資料に基づき、札幌市環境教育基本方針における 4 つの「環境教育を進める取組の柱」ごとに、事務局から説明を行った。

#### <人材の育成>

- ・札幌市教育センターにおける研修
- ・環境教育リーダー制度、環境保全アドバイザー制度
- ・札幌市環境プラザにおけるリーダー育成
- ・環境に関する学習活動・研究実践校
- ・エネルギーに関する環境教育の推進

#### <情報の共有・活用>

- ・環境プラザホームページ
- ・かんきょう元気新聞・元気通信
- ・環境教育関連施設連携事業の実施
- ・環境教育関連施設・事業一覧（平成 23 年度版）

#### <プログラムの作成>

- ・総合的環境副教材の修正・教員用手引書
- ・環境プラザにおける学習プログラム

#### <機会づくり・場づくり>

- ・さっぽろっこ環境ウィーク・環境フェスティバル

- ・校外学習用バス貸出
- ・環境教育へのクリック募金
- ・環境プラザにおける総合学習支援等
- ・かんきょうみらいカップ2011
- ・さっぽろこども環境コンテスト

#### 【質疑応答・意見・感想等】

##### <人材の育成>

エネルギーに関する環境教育の推進について

- ・（森田副会長） 百合が原小学校（平成23年度整備校）は、中期計画ということですが、何年までの計画でしょうか。
- ・（事務局：環境局 布目） 第3次新まちづくり計画は、平成23年度からの4年間です。まちづくり計画の中でご説明したのは、札幌市の事業計画を立てる上でのスパンがあるものですから、その中でこれだけのものをやりたいという区切りをつけているものでございます。ですから、百合が原小学校は4年で終わるということではなく、今年度、ハードの整備を行いまして、今後は継続的に活用を進めていきたいという事業でございます。
- ・（小林会長） 百合が原小学校は試験的な最初の1校目ですね。ですから、どういう見せ方をするのか、どんな設備をつけるのかということは、今回、あくまでもテストとしてやって、その後、学校をふやしていく予定ですね。
- ・（事務局：環境局 布目） 第3次新まちづくり計画の中では、24年度にもう1校、25年度にもう1校ということで、4年間の中で3校という計画をしております。財政的なお話もございますから不確定要素はありますが、私どもの4年間の計画の位置づけではそういう方向で進めたいと思っております。
- ・（大野委員） この話題で、学習プログラムの作成が活用例に入れられているのですが、これはどういうものになるのかという質問です。今の予定では4年間で3校に設備が入るということですが、例えば、設備がない学校でも学習プログラムをつくることをお考えなのでしょうか。
- ・（事務局：環境局 布目） 市内には小・中学校が約300校ございます。全部の学校にこの設備をつけることはできませんので、限られた数の設備ではありますが、すべての学校に何らかの形で波及していきたいと考えております。今、想定しておりますのは、設備がなくても教材を用いながら、こういった形でエネルギーに関する環境教育を進めていけるのか、授業の中でどのように進めていったらいいのかということを中心とした学習プログラムを考えております。ですから、設備を入れた学校だけが進められる、太陽光パネルがあるところだけで進められるというものではなく、その内容は若干変わってこようかと思いますが、全ての小・中学校に波及できる内容でと考えております。
- ・（三木委員） 新しい形のパネルや太陽光など、現状に対応したプログラムを作っていくということは大賛成で必要だと思うのですが、お願いがあります。  
先生方は、いろいろなものが配られて、どれをやればいいのかという状況だと思うのです。  
ですから、整理して、札幌市としてはこれを使っていけば、例えば副読本に統合して、それを使っていけば、新しいものも入ってくるし、先ほど話題にあった道徳的な面、倫理的な面も入ってくると整理してシンプルな形にしていけないと、使いづらい状況になってしまうと思っております。  
札幌市に小学校が約200校ある中で、3校というとほんの少しだけでも、カリキュラムさえあれば、もっといろいろな学校に広がっていけると思います。

- ・（事務局：環境局 布目） ありがとうございます。私どもも、そこに十分に気をつけなければいけないと思っております。学校現場で教員の方々が使いやすく、せっかく作ったものが活用できないで終わることのないように、皆様方からご意見を頂戴しながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
- ・（小林会長） 環境問題は、いろいろな物の考え方や立場があるので、多様なものがあってそれを先生方が選べるようにした方がいいのか、それとも、余りに輻輳し過ぎているので、一本に絞って配布した方がいいのか、皆さんのお考えはどちらでしょうか。
- ・（小路委員） 一本に絞る必要はないと思うのですが、関連性を持たせてほしいということです。我々が作ったものと新しいエネルギープログラムがどこで関連していく、どこかに派生して、どこかに戻っていける、そういう切り込み口が一つあると、いろいろなものに転嫁していけますし、整理ができるのです。そういった関連性をしっかり図ってほしいということが1点です。  
そして要望ですが、中学校の視点から見たプログラムという部分も必要かと思ひます。同じように使えるものであっても、対象としている子どもが違ひますので、そういった部分でプログラムしたときに微妙にずれが出てくると思ひます。ですから、中学校もどこかひとつ入れてモニタリングしていただければありがたいと思ひます。
- ・（宮森委員） やはり、家庭といかにつながることができるかということです。学校だけで終わらないで、家庭にも学校でやっていることがわかって、家庭でやっていることも学校に伝わるようなコミュニケーションができればいいかなと思ひます。
- ・（成田委員） 一般的に、これまでエネルギーはイメージが先行して語られることが多かったと思ひます。教育という観点では、エネルギーについて事実や現状をきちんと伝えていくということに十分注意してやっていただきたいと思ひます。
- ・（森田副会長） 教材を開発していくわけですから、それからすり合わせるのではなくて、今現在、副読本などにかかわっていらっしゃる先生にもぜひ参画していただいて、そこで新しいものが作り出せるということが一番理想的かと思ひますので、その組織づくりもご検討いただけたらと思ひます。
- ・（小林会長） 先ほどは、農業体験の重要さの話がありましたけれども、3.11以後、電気や食べ物はどうやってつくられているのかということ余りにも知らず、供給する側も、あらゆるサービス、需要にそのまま応ずるのが良い公共サービスなのだと思ひ込んできた傾向があると思ひます。  
まさに環境教育には、その辺の関係性を、次の世代を担う子どもにしっかりと身につけてさせたいという狙いがあると思ひます。  
「さっぽろ環境賞」がありますけれども、今年は、新陽高校が普通高校なのに選択科目にアグリビジネスを入れて、畑ではどうやって作物が育つのか、無農薬とはどういうことか等を体験を通して考えさせる科目を始めたということで賞を受けました。  
都会の子に、隔絶している食料生産の場と消費の場、電気生産の場と消費の場の関連をきちんと理解させるという環境教育は非常に重要なのだと思ひます。

#### <情報の共有・活用>

かんきょう元気新聞・元気通信について

- ・（高坂委員） いつもでき上がるたびに、良いものができたなという感じがしています。ただ、毎回思う残念なことは、なかなか張っていただけないのです。そこで、校長先生に直々にお願ひしたのですけれども、今回、土曜日参観で学校中を全部見たのですが、1クラスしか張っていませんので、とても残念だったと思ひました。

- ・（遠藤委員） 学級1枚ですから、掲示するようにお願いしています。しかし、張るという行為は子どもにすれば無機能的なのです。有機的にしなければいけないのです。つまり、自分の学んでいることとどうつなげていくかということをしなないと、自分ごとにはなかなかならないのです。  
ですから、「物」を用意してもだめで、「人」と「事」に分けさせていくことを何らかの形でしなければなりません。学校ではカリキュラムとのつながりということで、教科や生活、総合との横断的な、総合的な関わりをどうつくっていくかということにより、我がこと、自分ごとにしていくということです。環境というとすごく大きくて、雑駁で、自分の学びとどうつなげるのが、なかなかつかみにくく、それが子どものものになっていくというつながりを教師に理解させることと、カリキュラム化することが有機化することかと思えます。
- ・（小林会長） 阪神・淡路大震災の時の体験を風化させないようにということではいろいろな教材が用意されましたが、それも、寺田寅彦が言ったように忘れたころにしか来ないのです。特に、千年に一度などという低確率の災害にいかに対応していくか、そして、人工化されたもので、すべてを画面上でとなるとなかなか自分の体験になってこないということです。今、遠藤委員が言われたように、情報共有・活用をどうやって有機化、自分ごと化するかということで、その一歩が先ほどエネルギーのところに出てきた見える化だと思います。また、皆さん方がいろいろご尽力くださっているところだと思います。それから、かんきょう元気壁新聞の編集委員に加わってくださっている方は、本当にどうもありがとうございます。
- ・（三木委員） 作るのは大変だったのですが、3パターンにしたのはすごく良いことだと思っています。夏号は編集会議が遅れて、配布後すぐに夏休みになり、夏休みを過ぎると掲示されないという事情もあって、学校に配布するタイミングが悪くなってしまいました。今回は、その反省をもとにして、早目に編集会議を立ち上げてもらいたいと思っています。それも1つのパターンを作って、それを優しくも、難しくもということは無理だということにははっきりしました。ですから、いろいろなネタをいっぱい集めて、低学年、高学年、中学生と割り振っていかねばならないということがわかり、作り方も変えてきましたので、一步一步、歩んでいるところです。
- ・（事務局：環境局 布目） 夏号のタイミングが遅れたのは、私どものスケジュール管理が悪かったもので、申し訳ありません。冬号につきましては、もっと早く、冬休み前にきちんと中身を見てもらえるようなタイミングでお送りしたいと思っております。

#### 環境教育関連施設連携事業の実施について

- ・（小林会長） 関連施設のパンフレットも大変持ちやすい形できれいなものができてよかったと思います。さけ科学館は、地下鉄真駒内駅からも簡単に行ける便利なところ。小さな水生昆虫から小魚まで、豊平川に生きる生き物をここで見学できますので、いろいろな人に見に来ていただきたいと思います。  
それから、北方自然教育園は、果樹園から水田や野菜畑、さらにチョウの食草までいろいろあって、札幌市はバスが限られているので、4分の1ぐらいの学校しか行けないのだそうですが、5年生がそこで田植えや果実、野菜を採ったり、体験学習ができるようになっております。普段は、あの辺の農家の人に手入れを全部してもらい作物が生った時だけに行くので、草取りなどの変なことを知らないのですが、少なくとも、米がどうやってできるか、野菜がどうやってできているかなど、いろいろなことが体験できる大変良い施設です。

#### 全体について

- ・（白崎委員） 環境プラザのホームページや「かんきょう元気がベ新聞」は、これからキーワードになってくると思うのです。今、私たちがずっと進めている学校での教育、地域での教育、家庭での啓蒙などをつなぐ情報活用が、結局はベースになると思うのです。学校では、環境に対する見方や考え

方が子どもたちが社会参画する一步手前の見方や考え方でとどまります。子どもたちは、理科や社会や総合学習の中で、頭ではわかるけれども実践していくとなると、家庭になると思うのです。

かんきょう元気かべ新聞の「北海道で電気を使うのは冬がピーク!」「電気をたくさん買っている電気製品トップ3は?」「家のワットを調べてみよう!」など、まさしく家庭での実践を働きかける内容で、だから夏休み前なのだと思うのです。それは本当にぴったりで、それをうまく利用していくためにはどうしたらいいかと思うのです。

例えば、学校の教室に張るだけではなくて、PTAのお母さん方もそれを見ながら、家でこんなことはできませんかという働きかけもどんどんできると思います。

北ガスでもつくられている冊子などの中にも実践していくのは学校から一步足を離れたところでの実践が多いので、どうやってつないでいくかをこれから大切に考えていくシステム、仕組みが大事なのかと思っております。

その核になるのは環境プラザだと思うのです。プラザのホームページなどで先生方の研修だけではなくて、親子バスツアーなどは比較的プラザが中心になって行われていくことによって、札幌市の環境の大きな枠組みをつくっていくことができるかと思えます。

- ・(鷺田委員) 環境教育については、札幌市としてもこれだけ力を入れてやっておりますが、PTAでは情報発信ができていない現状です。学校から子どもたちが情報を持ち帰ってきて、逆に親が、「ああ、そうなんだ」と納得して家の節電などを行っているところが多いのではないかと感じています。

私どもの組織を使ってできるとしたら、研修大会等を通じて環境の取組ができると思っています。

なぜ節電をしなければいけないのかというタイトルの切り口で地球温暖化防止と言っても、親はそれほど感じていないのかなと思います。3.11の地震で原子力が問題になって原子力を使わないようにしようというはっきりとした目的を持った切り口にさせていただくと、PTAとしても研修を非常にやりやすいのです。節電をしようというところで研修大会をやっても、親御さんは、そんなのわかっている、当たり前だとなるのです。あえて、それをもう一回注目させるには大きなキーワードが必要ではないかと思えます。興味を持っていただけるためにそれが必要ではないか感じました。

- ・(丸山委員) 本当に難しい問題だと思います。環境の大切さは言い続けられてきて、皆さんは知識としてはわかっているけれども、自分ごととして自分の行動をどう変えたらいいのか、どういうふうにも有機的に結びつけていったらいいのか、ここで話し合っていることは札幌市の環境教育基本方針をどう推進するかという点で、その中で私が一番力を持って言えるところは、環境局と教育委員会が一緒にやり出したということで、そこはまだ期待できると思います。

私は、ここの委員会のメンバーや、環境局も教育委員会ももっと使っていただいていた方がいいと思うのです。何かやるときに、環境局だけで考えないで、学校に持って行って喜ばれる支援策、「学校の先生として使いやすいでしょうか、教えてください」ということを言っていけば、高坂委員がご心配になって調査もしてくださっているように1クラスしか張っていなかったということにはならないのです。

例えば、環境を考える委員会としてはどういう支援になるかというやり方をもう一度考えみるということです。小さなところからでもいいと思うのです。例えば、かんきょう元気かべ新聞も、欲しい先生がとりに行きやすく、ダウンロードして、印刷して、スペースを自分でつくって張る、先生が「よし、張ろう」と言って張ったものは、子どもたちへのメッセージとしても強くなるのではないかと思います。一手間かけるというか、その部分をどうつくっていくかという作戦かと思えます。

一方、PTA副会長は、「エネルギーを大切に」ではもうみんなはついてこない、では、自然エネルギーや原発はどうしようという大きなテーマどりをしてみようではないかというご提案をいただいているので、ここが戦略的なもの考える推進委員会でこの後の2年間ぐらいやっていくスタートで、どうなるかはわからないけれども、やっていこうという決断ができればおもしろいと思っています。

ここから話が変わります。一つのテーマにしていきたいのは、今日の議論とも重なるものですが、平成22年3月17日ですから、一昨年度の最後の推進委員会で出た大きなテーマについて、今後は、私もこの2年で考えていきたいと思っています。

学校に対して行政や企業がどんどん期待をして、学校という場で環境教育を推進してほしいという願いがあるものの、学校から見ると、いろいろなオファー、支援策ということが多過ぎて、どれを受け入れたらよいのか、わかりにくい状況になってきたという危惧が提案されていました。

今日も、またその議論が出ています。ですから、その部分をどうしていったらいいのかということや学校の先生も教育委員会も、一緒にやっていく札幌市ならではのこの会議で考えるテーマとしてはとてもよろしいのではないかとこの会議で考えるテーマとしてふうに思っているところです。

- ・（小林会長） ここが戦略委員会としてもっとアクティブに打って出るべきだということはもっともです。来週に環境保全協議会があります。ここでも、自分は何ができるかということをお互いに行った上で、役所や企業にこういう協力をしてもらえればもっと効率は上がる、波及効果があるものやっていくということだと思っております。ですから、この委員会で扱っていることでも、おそらく親御さん、子ども、学校、市役所と、それぞれがやることのあるのだらうと思います。協力したら2倍にも3倍にもなることもあるので、戦略的に整理していかねばならないだらうと思います。
- ・（大野委員） かんきょう元気壁新聞の件です。この新聞は全小学校、全中学校の各クラスに配布しています。学校がこれを受け取って、張る、張らないを教師が決められているということです。少なくとも税金を使って各クラス分を印刷して、配布しているのですから、張っていただかないとまずいわけです。子どもたちが読むかどうかはその先生の指導の仕方によるわけで、できればみんなが積極的に読んで活用してほしいと思います。最低限、張れば、1人はひっかかるかもしれないし、何かが起こるかもしれません。これは、効率などは無関係に、30人のクラスで1人だけでも構わないのです。それを覚悟でつくっているところがあると思うのです。もし張らないという選択肢があるのであれば、先ほど丸山委員が言われたように、そういう選択肢がある前提で印刷するなり、配布の仕組みを考えないとおかしい。ですから、1クラスだけというのは大きな問題だと思っております。学校も、いろいろなプログラムが来るということは、そこはかなりの覚悟を持って受けとめてもらわなければいけないと思います。余り深く考えないで、とにかく張るということです。それができないのだったら違う仕組みに変えるというふう考えた方がいいと思います。

#### <プログラムの作成>

総合的環境副教材の修正・教員用手引書について

- ・（丸山委員） 1点目ですが、パスワードが必要な設定にしている理由という状況があると思うのです。無い方がいいとお考えなのに、パスワードが現在必要な理由は何かを知りたく思いました。続けて2点目ですが、前回か前々回の委員会で、副教材のどの部分がよく使われている、使われていないというご報告をいただいて、次の副教材の改訂に向けて検討するということがあったと思います。私の記憶では、三木委員から、残念ながら引越しのときにごみ箱に分別されているのを目撃したとか、白崎委員から、ご苦労なさって各单元にとっても関連したところの利用頻度は非常に高かったという評価をいただいています。今回、そのようなレベルで評価をお聞きできる部分があればお願いしたいと思います。
- ・（事務局：環境局 布目） まず、私からご説明しまして、補足を教育委員会からお願いしたいと思います。ご質問の1点目のパスワードの件でございます。教員用手引書の中央部分は、子どもたちが見るページになっております。授業を進める上でこんなものはどう思うかなという投げかけ、問いかけがあって、回答例のようなものが、教員用手引書には書かれております。最初から「答え」が見えるのではなくて、子どもたちに少し考えてもらいたいということです。パスワードを無くしてしまうと、教員の方以外のお子さんでも見えてしまうという

ことで、教員用手引書につきましては、それをご覧いただきたい方だけが見ることができる仕組みということで、設定しているものでございます。

ただ、そうではなくて、こういう考えもあるのではないかというご意見がございましたら、頂戴したいと思います。

もう一つの副教材の活用についてでございます。

先生方からワーキンググループの中でいただいたご意見では、3・4年生で一番活用度が高いとのこと。それは、授業を進める上で、「教育課程編成の手引き」と副教材の単元名に整合性をとり使いやすくしているのが大きな要因ではないかというご意見です。そこで、1・2年生、5・6年生につきましても、3・4年生レベルの活用度に上げたいということで、今年、24年度版の作成に向けて、充実を図るべく進めているところでございます。

- ・（事務局：教育委員会 上田） 教育委員会におきまして、どの環境教育の実践を行ったかというデータの調査はしておりません。札幌市では、学習指導要領に基づいて手引を作成し、それに基づいて各学校で授業を行っておりますが、その内容については地域の実態その他もございまして、一律にこれをやりなさいと示すことはできませんので、調査自体をしておりません。

ただし、4年生の社会科の学習の中で、特に環境に特化し、ダイレクトにつながるものがありますから、教科との関連がしやすいということで、おそらく授業がたくさん実践されているということが想定されております。それを受けまして、今年度で作成している段階で、先ほど白崎委員からありました単元名を入れてはどうかということは、1・2年生、5・6年生といういろいろな学年において関連を持たせることでよりやりやすく授業実践が増えるであろうということで進めさせていただいているところです。

- ・（小林会長） 印刷物として手にした方がいいでしょうか。それとも、パソコン上でダウンロードすればそれで済むでしょうか。どういう先生が多いのですか。

- ・（事務局：教育委員会 上田） 実際に今、教育委員会から出ているものにも、ホームページに掲載されているものがあります。ただ、そういうものがあるということを知らない方も多く、実際に教室で何かを使おうと思ったときに、すぐにパソコンを開いてできない場合もあり、紙媒体で配布して、活用していただける方向で進めているのが現状でございます。

- ・（鷲田委員） P T Aに長くかかわっていて、学校の先生方がすごく大変な情報量と大変なお仕事をされているのは重々承知しているのですが、もしやられるのであれば、教育委員会でどういうふうに使われているのかという現状の把握はきちんとして、だからこそ次の段階に進むということをしていただきたいと思います。もし、推奨するのであれば、教育委員会としてもある程度把握して、現状で使われているのか、使われていないのかは理解する、そして、使われていないのだったらどうするかというふうに考えていただかないと、今の答えだとあいまいかと思えます。

- ・（事務局：教育委員会 上田） 現状としまして、札幌市で作っている手引の中に載せ、毎年春に各学校から実態調査を行っていただいております。その中で、環境についての学習その他についての質問項目がございますから、環境に対しての報告はあります。ただ、その内容について、何年生のどこでどのような内容となると、結果を得ることが厳しいところがあります。あわせて、環境についての学習は、全単元、教科を超えて、道徳、特別活動等の中で実施してくださいというお願いはしているところですが、教科としては位置づいていないのです。環境科というものがありませんので、環境のことは各学校で絶対にやらなければならないものでもないのです。ですから、その部分をこれからいろいろなところで、教育委員会から出しているものの中にも関連を持って授業を行っていただきたいというお願いをして、それに関してどのようなことをやっていますかという報告を受けて、やっている、やっていないというところです。そこをこれから細かくということになっていくと、少し考えていかなければならないと思っております。

<機会づくり・場づくり>

「環境教育へのクリック募金」寄贈教材について

- ・（森田副会長） クリック募金での教材は、私個人としては、廃油リサイクル剤はいかがなものかと考えております。廃油のタイプと反応性にもよるのですが、必ずしも水環境によろしくないのです。BOD、CODがかなり高くなるケースもございます。ですから、ほかのもっと良い教材がここに出ていますので、廃油リサイクル剤は使わない方がいいのではないかという意見です。
- ・（事務局：環境局 布目） ありがとうございます。参考にさせていただきます。

校外学習用バス貸出について

- ・（白崎委員） 今年は70校という利用校数は、バス台数も平成23年度では155台と減っているのです。どうして減ってしまったのかということが一つです。当たった年は行けてよかったけれども、来年は行けないね、今度は行けるかなとなると、学校の保護者も、どうしてなのだろうか、またお金がかかるということになってくると思います。ですから、できれば全部の学校がカリキュラムに入れられるような定着した形になれば一番うれしいと思います。
- ・（事務局：環境局 布目） 予算というところが一番大きい理由です。札幌市も財政状況が大変厳しく、増えるということは本当に難しい状況でございます。  
また、昨年度とその前は、環境教育に使ってほしいということで寄附のお申出があり、その一部をこちらの事業に充てていた状況があり、今年よりはバスの貸し出しの台数が少し多くなっております。すべての学校で使っていただきたいという事業担当者の本音もございますが、予算的に困難な面もあることをご理解いただきたいということが1点です。また、学校の選定、貸し出し優先順位については、教育委員会と一緒に選定しておりますが、今後の方法については、皆様からもご意見をいただきながら、考えていけたらと思っております。
- ・（小林会長） それぞれの学校が年度初めに年度計画を立てているのに、くじ引きで当たらないというのはまずいですね。教育予算の効果がすぐには目に見えないゆえに減らされていく状況は、打ち破っていかなければならないと思います。  
教育委員会でもご苦労されていると思います。  
さっぼろこども環境コンテストは、4回目になりますか。大野委員、丸山委員、審査員をありがとうございます。これは、どんなことに取り組んでいる学校が表彰されるか、そして審査委員長がどういう講評をするか、それが、それぞれの環境教育の方向づけというか、何が評価されるのかという非常に重要な役割をしておりますので、大野委員も大変でしょうけれども、今度もよろしく願いいたします。

<その他>

- ・（鷲田委員） 学校でできないということは、先ほども言われているとおり予算がないということでした。札幌市は、ごみの減量化に成功して、なおかつ市民の皆さんに納得いただいて、ご褒美をいただいていると思いますし、予算も遞減されています。そういうことを考えると、せっかく環境をやっているのですから、学校の節電により1年間で使った節電分を学校予算に回してあげるなどの形で還元していけば、今の話はかなり行くのではないかと思うのです。学校もそれだと環境の切り口で一生懸命に、例えば子どもたちに節電させるためにこの新聞を張ると思うのです。そういうことを考えていただければ、一つの戦略としておもしろいのではないかと思いますので提案させていただきました。
- ・（小林会長） ごみ減量も、環境教育として学校が協力した効果は相当あるだろうと思うのです。その効果を数値化して、主計セクションと予算どりを頑張ってください。これは鷲田委員からのエール



ですからね。

- ・（事務局：環境局 高木） たしか、ドイツでその様な仕組みを環境でも導入したいということで、フィフティ・フィフティのような名称で一時期やっていたと思います。
- ・（小林会長） 初年度だけは今までむだ遣いしていたものが大幅と減りました。それ以後は減る余地がないので、初年度だけしか効果がなくてうまくいかなかったところはあります。
- ・（大野委員） 先ほど、フィードバックということが出ていました。確かに、難しいところがあるのはわかります。副教材を使ったかどうかという調査をすると、使えという半ば強制になりますから、そこは教師が、複数来た場合は選ぶということがありますので、余りうかつに調査をするのは危ないというのが私の意見です。ただ、副教材自体は、税金を使って子どもたち全員に少なくとも渡すということはやっています。それを教師がどう使うかは教師の教育に任されています。ですから、この副教材を使わなくても相当のものをやっているということであればそれでいいわけです。  
かんきょう元気壁新聞の場合は、張らないと税金を有効に使ったことにならなくなりますから、張らざるを得ない媒体だと思うのです。今うかがっていると、校外学習用バスの貸出に対しては学校現場から非常に期待があると思うのです。ですから、ほかの事業を縮小するなりやめるなりしてこちらに回すということも考えていかなければいけない、その時に、フィードバックが問題になると思うのです。例えば、こども環境コンテストはもうやめてもいい、この予算で何台ふえるかという議論も必要になるのではないかと思うのです。ですから、何が有効かは教育委員会と環境局で把握していただくような努力は要すると思います。
- ・（事務局：教育委員会 上田） 札幌市教育委員会で三つの柱に「雪」「環境」「読書」とあります。ですから、教育委員会にとって環境は実は大きなウエートを占めている学校の教育内容でございます。ですから、副教材その他をすべてそろえて丸投げではなくて、当然、そのことに対して調査なり、学校への対応もさせていただいております。ただ、今より多くのものが出ているということと、先生方がそれをもとにいろいろな授業を実践されているということで、例えば、ごみに関するもの、節電に関するものも調査はさせていただいております。ただ、そこから一步踏み込んで、その内容にまで行けるかということ、今のお話をいただいて、さらに検討して、次のことを考えていければなと思っているところです。

## 2 議事（3）その他

### 環境保全活動・環境教育推進法の一部改正について（情報提供）

- ・「環境保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」の一部が改正され、「環境教育等による環境保全の取り組みの促進に関する法律」と名称変更のうえ、平成23年6月15日に公布されたこと、その概要について、事務局から情報提供を行った。

## 3 閉会

（事務局から閉会の挨拶）

- 以上 -